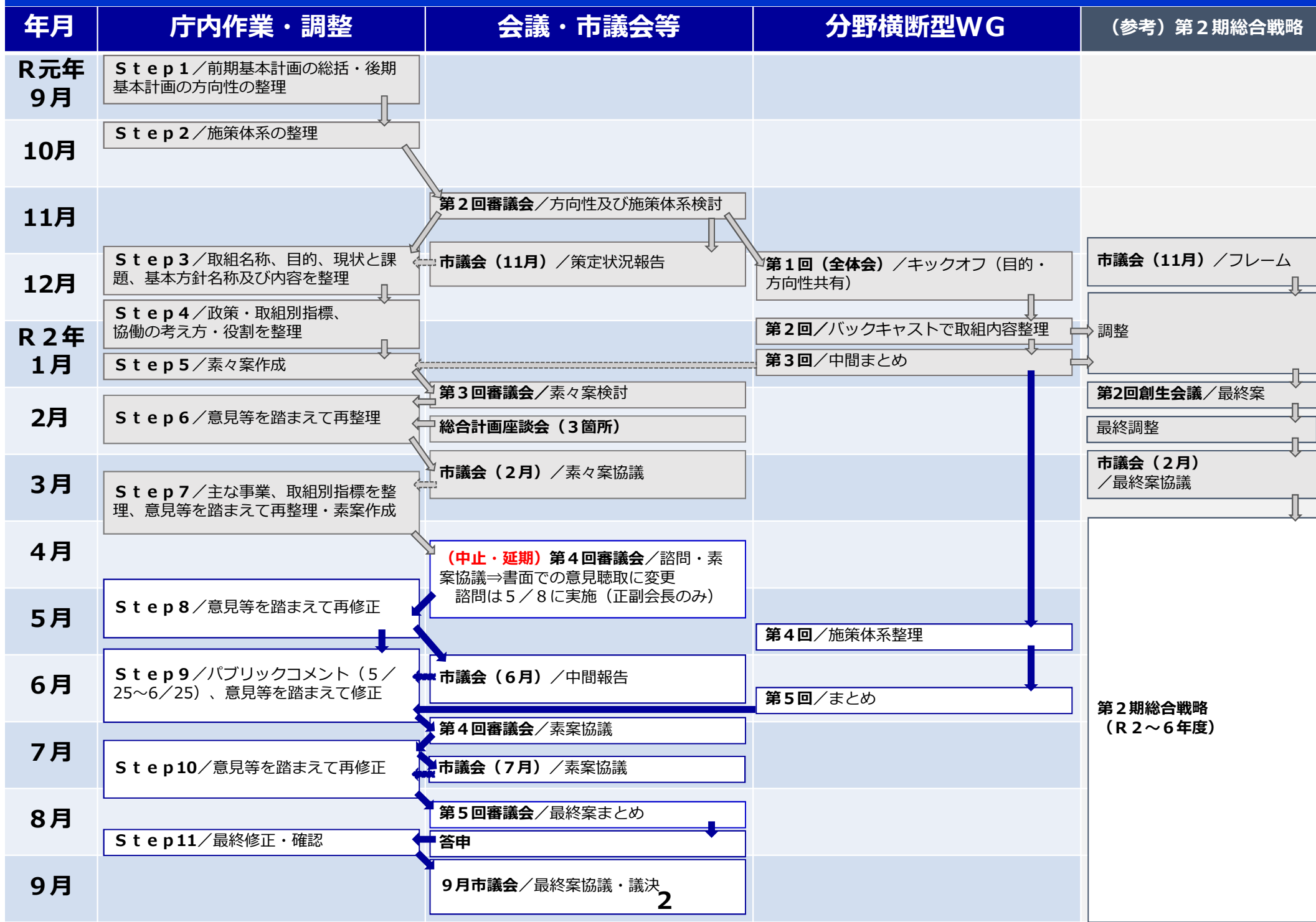


# 第2次袋井市総合計画 後期基本計画（素案） について

令和2年4月  
(企画財政部 企画政策課 企画係)

# 後期基本計画策定スケジュール（全体）

（R02.04.20修正）



# 第3回総合計画審議会での議論

(日時) 令和2年2月6日(木) 午後6時30分～午後8時45分

(会場) 袋井市総合センター 4階 大会議室

(内容)

- ①後期基本計画(素々案)について
- ②(情報提供)第2次総合計画「後期基本計画」策定に向けた「総合計画座談会」の開催について



(意見等)

○人生100年時代の到来により、定年の延長など高齢者の就労が進む中、共働き世帯は子育ての支援を祖父母に頼ることが難しくなる。今後はそのような観点から子育て支援を考えていくことが必要ではないか。

○「外国人」という言葉は、統計上の表現と生活としての表現は分ける必要があるのではないか。日本で生活している人という点では日本人と同じであり、区別は適当ではない。多様性を活かしていく社会の実現に向けて、どのような表現が適当なのかを議論することが必要ではないか。

○人生100年時代は「どのように働いてどう暮らすのか」が変化する。それを見据えて自治体は産業をどう考えるかが重要。特に就労については、中長期的にどんな職業にどのくらいの人数が必要か、余剰となるのかを企業や市民とすり合わせると良いのではないか。政策指標に従業者数や就業者数を用いてはどうか。

○女性が「どのように働き子育てをしたいのか」を考えて政策立案を行うことが大切。特に子育て期は学びを深める期間であり、自助力を養うためにもいかに子育ての時期に時間や余裕を確保できるか。男女問わずフルタイムではなく緩やかな働き方を支援することが必要ではないか。

○生活習慣病の発見や予防などにビックデータの活用が進んでいる。今後、個人の健康情報を自ら管理できることが進めば、より効果的に健康への分析や政策立案ができるのではないか。

○経済低成長の時代にどうしていくか。0から1を目指すのではなく1+0などの組み合わせ、異業種異分野の交流が重要。ICTの活用についても、自らが実際に体験することで課題が抽出されるのではないか。

○地震や水害などの災害対策は発災後の対応(災害関連死の防止)も含め一体的に考えるべきではないか。

# (参考) 第1回総合計画審議会での議論

(日時) 令和元年6月28日(金) 午後6時30分～午後8時45分

(会場) 袋井市役所5階 庁議室

(内容)

- ①委員委嘱
- ②総合計画審議会の役割等、会長及び副会長の選出
- ③第2次総合計画後期基本計画策定方針及びスケジュール
- ④袋井市の将来について



(意見等)

○これからの防災・減災のあり方は、市民力をいかに上げていくか。「市民力なら袋井市」というところを活かしていくことが非常に大事な視点。

○少子化のことを考えると、結婚をする、子どもを産みたいと思う心を育てていくというのが、すごく大切。そのためには、教育と連携し幼小中高一貫で命の大切さやライフワークプランを学ぶことがとても大事。

○多様性を強みにするまちという観点から、雇用、商業、産業全般の在り方を考えていくべき。

○社会潮流が変化していく中、この5年の計画の中では、ICTやAIなどを積極的に活用し、人力的なコストを下げるなど、次代を先取りした取組が必要ではないか。

○医療の分野では、中東遠地区の医師数が不足しており、在宅医療が進んでいない。今後、ICTなどの利用により効率的に在宅医療を行い、これから到来する多死時代を乗り切る必要がある。

○健康づくりには、退職した後の男性の方をターゲットした仕掛けづくりをもっとしていく必要がある。

○市民同士が触れ合う場、つながりを感じる場はこれからますます重要。本年に完成する総合体育館は、市民同士がつながる場となり得るのではないか。

○産業都市でもあり、農業ではメロンが世界的にも評価されていることや、高齢になっても働ける環境があるなど、袋井市の強みを確認することも非常に大事ではないか。



# (参考) 第2回総合計画審議会での議論

(日時) 令和元年11月6日(水) 午後6時30分～午後8時45分

(会場) 袋井市総合センター4階 大会議室

(内容)

- ①前期基本計画の総括評価、社会潮流分析、人口動態の整理及び市民意識調査の結果
- ②後期基本計画の施策体系見直し(素案)
- ③「人生100年時代」「Society 5.0社会」の到来を見据えた新たなまちづくりへの分野横断型による検討



(意見等)

○施策体系見直し(素案)及び分野横断型の検討テーマなどについては了。

○市民の安全・安心という観点から、全国各地で発生した台風や大雨などによる水害や停電などへの対応も取組に反映していくことが必要。

○課題解決には、公助で解決できることが少なくなっており、市民や地域の自助・共助など役割分担が非常に重要ではないか。

○多世代や新旧住民、外国人などの交流できる場を設けることが、まちの中での新たな価値創出につながるのではないかと。また、まつりなど固有の地域資源や文化・芸術はそれをつなぐ重要な役割を担えるのではないかと。

○ICTなど最新技術を課題に対して積極的に活用していくことが必要。

○豊かさを実感できるまちづくりには、量の拡大ではなく質の向上や持続可能性の視点が不可欠。また、女性が働きやすい、住みやすいまちづくりが大切。

○自然な形で外国人と接することができる機会をまちや地域で作っていくことが、共生社会の確立や将来のまちを担う「人づくり」に重要ではないかと。

# 総合計画座談会の開催

第2次総合計画 後期基本計画の策定にあたり、計画（案）を周知するとともに、様々な立場の方からの意見・提案を当該計画に反映し、より現実に即した実効性のある内容としていくため、具体的な施策のアイデア等を募る場として、次のとおり市内3箇所で「総合計画座談会」を開催。

**（第1部）総合計画「後期基本計画」（素々案）概要説明**      **（第2部）テーマ別トークセッション**

**【第1回】しごと・産業 ～ 多種多様な組み合わせでまちの価値を高める～**      **2/17開催・46人参加**  
(論点) まちの中に色々な「楽しい」コトづくりをしていくためには何が必要か

とれたて食楽部 シニアアドバイザー	村松 英明	袋井市観光協会 理事	大場 和明
ふくろい未来づくりラボ 代表	塩崎 明子	静岡理工科大学理工学部建築学科 准教授	石川 春乃
(株) 大和コンピューター	土岐 賢介	(コーディネーター) 副市長	鈴木 茂

**【第2回】学び・人づくり・暮らし ～ まちや地域を担う人材を育む～**      **2/18開催・33人参加**  
(論点) 人生100年時代での豊かさ創出につながる生涯を通じた学びとは何か

山名学園 理事長・山名幼稚園 園長	諸井 理恵	小中学生の科学教室主催	岡本 伸顕
お結び代表・セラピスト	山本 成美	袋井市青少年問題協議会 会長	渡邊 俊之
袋井市社会教育委員	丸山 秀美	(コーディネーター) 副市長	鈴木 茂

**【第3回】健康・つながり・地域 ～ 誰もが活躍できるまちを創る～**      **2/20開催・37人参加**  
(論点) 誰もが多様な個性を活かし幸せに暮らせるまちとなるには何が必要か

あさば子育て広場「チュンチュン」 代表	永井 由紀子	(社福) 明和会 静岡中東遠障害者就業・生活支援センターラック 就業支援ワーカー	高橋 幸孝
健康運動指導士	鈴木 ひろ江	袋井国際交流協会事務局	鈴木 美智子
(一社) ここ咲・行政書士	原野 英見	(コーディネーター) 副市長	鈴木 茂

# 総合計画座談会（第1回：しごと・産業）での議論

**(日時)** 令和2年2月17日（月）午後7時～午後9時

**(会場)** 袋井市総合センター 4階 大会議室

**(テーマ)**

しごと・産業 ～ 多種多様な組み合わせでまちの価値を高める ～

[論点] まちの中に色々な「楽しい」コトづくりをしていくためには  
何が必要か



**(意見等)**

○茶畑の風景は素晴らしく県外にはほとんど無いもの。農の風景を守っていくのは農家のみならず、まちの財産として官民連携で取り組んでいくことが必要ではないか。また、子どもの頃の地域資源に触れる体験は記憶に残り、地域への愛着醸成や人づくりの基礎となる。モノではなくてコト（体験）が重要ではないか。

○袋井市の人口は9万人弱で規模としてちょうど良く、色々な取組がしやすい規模感。様々なコトづくりには、瞬発的に取り組むだけでなく、皆に楽しんでもらうことが不可欠。取組の内容や手法は変わっても良く、大切なのは楽しいことを継続していくことではないか。また、全体最適への広域的な視点・連携も大切。

○クラウンメロンや遠州三山など、袋井市はポテンシャルが高いにも関わらず、全国的に知名度が低い。知名度を上げることがブランド力向上につながり、特産品の売上アップなど状況が好転していくのではないか。

○持続可能なまちづくりをしていくには、教育に力を入れていくべき。先端的な教育を実施することがまちの価値向上につながり、定住や関係人口の増加に結びつくのではないか。

○人口や高齢化率など、地域によって状況は異なっており、実状を正しく把握することが大事。例えば、どうしたら子育てなどを含めて安心して暮らせるか、働く世代の女性を対象として丁寧なアンケートを取り、地域づくりに反映していく。それを踏まえて住民が自らの地域をどうしたいか考えることがとても大切。

○まちを魅力的にしていくには、様々な組織や団体、人が有機的につながることが不可欠。また、多世代や新旧住民（地域）は相互に補完し合うことが大事であり、様々な人が出会え、つながる場がまちの中にあると良いのではないか。自治体にはそのようなプラットフォームとしての役割が求められているのではないか。



# 総合計画座談会（第2回：学び・人づくり・暮らし）での議論

**(日時)** 令和2年2月18日（火）午後7時～午後9時

**(会場)** 月見の里学遊館2階 集会室C

**(テーマ)**

学び・人づくり・暮らし ～ まちや地域を担う人材を育む ～

**[論点]** 人生100年時代での豊かさ創出につながる生涯を通じた学びとは何か



**(意見等)**

○自ら興味を持ち、体験すること、主体的な楽しさが学びには不可欠。また、仕事以外にも自分ができることや役割を複数持ち、それを地域や社会、身近な人に提供できることはとても価値がある。

○昔を知ることが、当たり前前に享受している便利さを実感することに加え、現在に至るまでの人々の様々な工夫や知恵に触れる機会となる。変化が激しい時代を生きるには、自ら学び考える力をつけていくことが不可欠であり、昔を知ることがそうした能力の育成につながるのではないか。

○組織は継続よりも変容が大事。短期間で変化が生じる時代には、取り組む内容やリーダーも常に変わっていくことが必要。スタイルが変わっていくことを許容する社会・まちになることが必要であり、新陳代謝を繰り返し、当たり前前に変化していくことがこれからのコミュニティのスタイルではないか。

○組織化したりグループが大きくなると“やり辛さ”というものが出てくる。様々な個性（知識・技術）を持つ個人が、自発的かつ緩やかにつながれる場や情報発信の場があれば良い。

○地域コミュニティなどの役員を担当する年齢が低下し、子育て・働き世代と重なる状況下では過去と同じ内容で活動していくことが困難。その対応として、内容や役割分担を見直すとともに、個々の主体的な参加が大事。目指すべきことが同じであれば、そこに至る過程や内容は変化しても良いのではないか。

○豊かさを創出する生涯を通じた学びとは、様々な価値観を受容する力やそれにつながるコミュニケーション力を高めていくことではないか。また、幼小の頃から将来を見据えた学習が大事。将来に向け必要があるからやる、という意識変革が必要。短所の克服より長所を伸ばすことが必要ではないか。



# 総合計画座談会（第3回：健康・つながり・地域）での議論

**(日時)** 令和2年2月20日（木）午後7時～午後9時

**(会場)** メロープラザ2階 会議室3

**(テーマ)**

健康・つながり・地域 ～ 誰もが活躍できるまちを創る ～

[論点] 誰もが多様な個性を活かし幸せに暮らせるまちとなるには  
何が必要か



**(意見等)**

○人の個性を伸ばす、とはその人のことを良く知ること。信頼関係が生まれ、それが次につながる。障がいのある人の中には色々な特性やこだわりがあるが、時間はかかっても自分でやっていることを尊重してあげることが大事。障がいのある方は決して一方的に支援を受けるだけの存在ではなく、様々な形で活躍できる方、望む方も多くいる。その特性を理解し、サポートできることが共生社会の実現には不可欠。

○人にはそれぞれ異なる文化的背景や価値観があり、違うのが当たり前という前提で誰もが“対等”という意識を持つこと、身近な多様性に気づくことが大事。ありのまま、一人ひとりが認められて生きている社会が本当の共生社会であり、地域や社会はあらゆる存在を受け入れる寛容さを持ち、一緒に地域を創っていく、個々がそういう意識を持ち、活動していくことが必要ではないか。

○ボランティアは、“やるだけ、受けるだけ”ではなく、そのあり方を変えていくことが不可欠。また、資格や技術が無いから“できない”ではなく、できることをやるのが大事であり、できないことはできる人に任せれば良い。まず一歩踏み出すこと、そして一歩へのハードルを下げる仕組みづくりが必要ではないか。

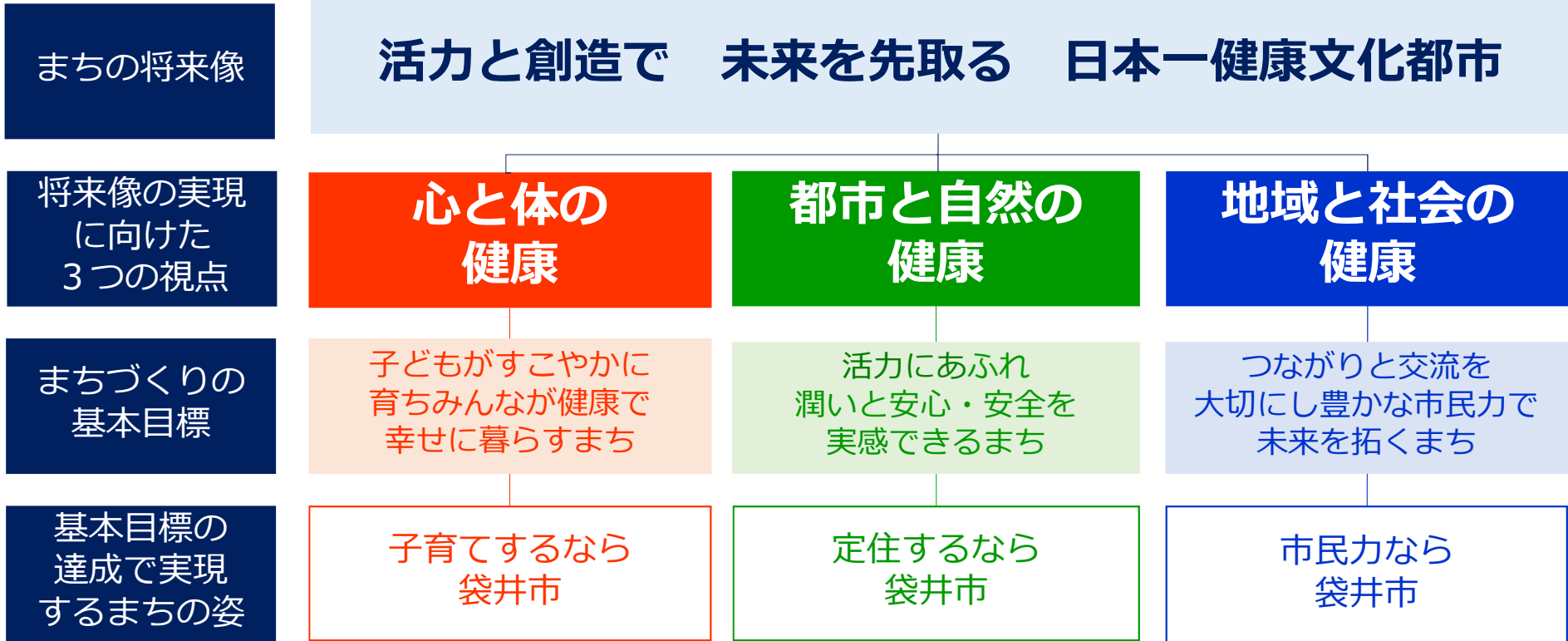
○多様性を受容・尊重できる社会・まちとなるには、LGBTへの取組が不可欠ではないか。生まれながらの変更ができない特性であり、まずはその理解に向けた取組を進めていくことが必要ではないか。

○年齢や、性別、国籍や障がいの有無によらず、人にはそれぞれ特技やできることがあり、それを通じて主体的に社会参加していくことが大切。社会参加の機会が多いほど、多様性を受容できる力が高まるのではないか。地域のソーシャル・キャピタルを高める仕組みづくりが自治体には求められているのではないか。

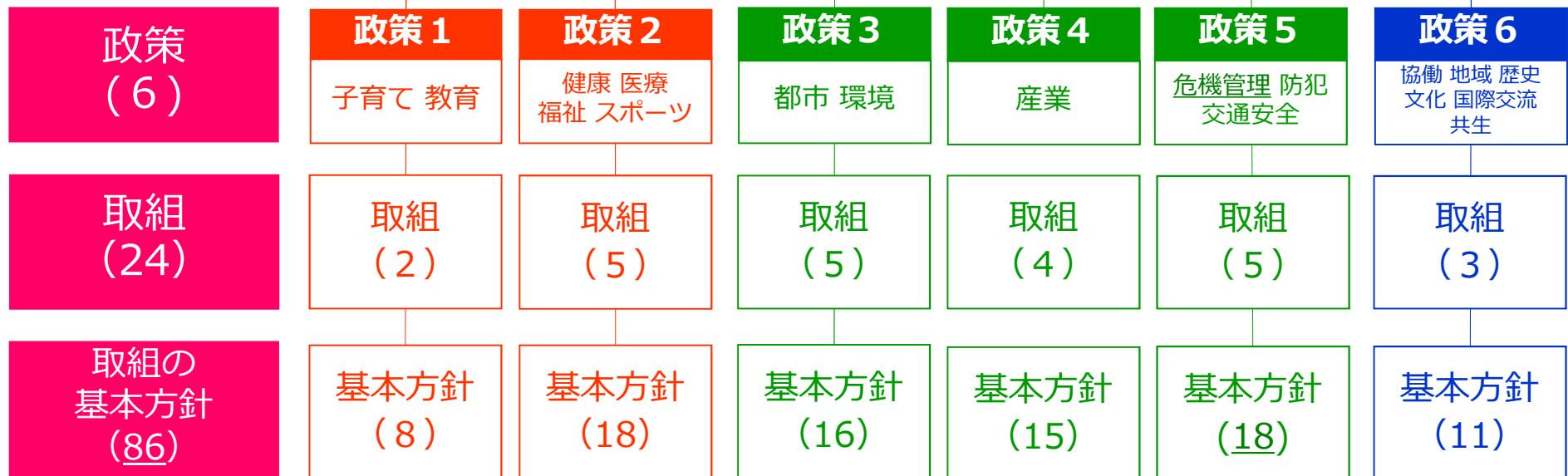
# 後期基本計画（素案）の施策体系（概略）

※下線は素々案から変更となった箇所

基本構想



後期基本計画



# 後期基本計画の構成

分類	内容	対応
序	第1章 計画の意義と特徴	変更なし
	第2章 計画の構成と期間	変更なし（年号等を一部修正）
	第3章 時代の潮流	R2年度更新（最新の情報を踏まえて策定）
	第4章 市政に対する市民ニーズ	R2年度更新（R2年度市民意識調査を反映）
第1編 基本構想	第1章 基本構想策定の目的	変更なし
	第2章 まちの将来像	変更なし
	第3章 まちづくりの基本目標	変更なし
第2編 基本計画	第1章・第1節 将来人口	R2年度更新（袋井市人口ビジョン（R1点検）を反映）
	第1章・第2節 土地利用	R2年度更新（袋井市都市計画マスタープラン（H30改定）を反映）
	第1章・第3節 財政計画	R2年度更新（令和2年度袋井市財政見通し（R2作成）を反映）
	第2章 行政経営方針	変更なし（第2次行政改革大綱／計画期間：H28～R7年度）
	第3章・第1節 施策体系	後期基本計画（素案）のとおり
	第3章・第2節 政策・取組	後期基本計画（素案）のとおり
（仮）分野横断で取り組むべき考え方	R2年度更新（分野横断型WGの検討を踏まえ整理）	
付属資料	策定体制・経過、政策別取組別指標	R2年度更新（指標については仮設定済）

諮問する  
部分



# 後期基本計画（素案）策定のポイント

## ①人生100年時代の到来

- 変化の激しい時代に対応できる「人づくり」
- 人と人とのつながり（地域内での互助）づくり
- 健康で「生涯活躍」できる社会の構築、人生のマルチステージ化への対応

## ②個々が望む暮らしを支える基盤の構築

- 災害に強く安心安全なまちづくり（危機管理）
- コミュニティ再構築、自治体のプラットフォームビルダー化（公民連携）

## ③技術革新の進展（超スマート社会の到来）

- あらゆる分野でのICTの積極的な活用

## ④多様性を活かしたまちづくり

- 性別や年齢、性指向・性自認、国籍などにとらわれない「全員活躍」社会の構築

## ⑤このまちならではの資源を活かした地域活性化

- 地域の歴史・スポーツなどを活かしたまちづくり
- まちの規模感を活かしたアジャイル（やらまいか）行政の推進
- 文化芸術への取組

## ⑥SDGs

- 社会・経済・環境の調和

## ⑦経済危機・社会や暮らしの変化

- 新型コロナウイルス感染症による経済の低迷や生活への影響など

⇒各政策・取組に加え、時代の潮流や<sub>1,2</sub>(仮) 分野横断で取り組む考え方に反映



# 素々案からの主な変更内容（全体・政策）

## 全体

- 文章を再整理（語句や表記を統一）、数値等を最新に更新
- 各政策・取組ごとに該当するSDGsの目標を貼り付け
- 基本方針に位置付ける「主な事業」を記載、指標の目標値を設定

## 政策2（健康・医療・福祉・スポーツ）

- 「人と人、人と社会のつながり」（ソーシャル・キャピタル）の必要性を追記

## 政策4（産業）

- 新型コロナウイルス感染症の発生による経済への影響を追記
- 女性や高齢者の就労促進の必要性を追記

## 政策5（危機管理・交通安全・防犯）

- 防災減災に感染症を含め、危機管理全体として再整理（取組1を危機管理全体〔地震・津波・原子力・感染症〕、5-2を風水害に特化したものとして再整理）
- 防災減災に向けた「自助」「互助」のより一層の促進を追記
- 発災時に切れ目なく機能する医療救護・健康支援体制の構築を追記
- 新型コロナウイルス感染症の発生を踏まえ、「感染症対策」を追記

# 素々案からの主な変更内容（取組）

## 政策 1 ・ 取組 1（みんなで支え合う子育て環境の充実）

○公立幼稚園・保育所の認定こども園化などによる教育・保育施設の環境整備を明記

## 政策 1 ・ 取組 2（未来に輝く若者の育成）

○「幼小中一貫教育」の取組を担う「学園」について追記

○「考える力」を育成する手段の具体例（タブレット端末）を明記

## 政策 2 ・ 取組 1（生涯しあわせに暮らす健康づくりの推進）

○「人と人、人と社会のつながり」（ソーシャル・キャピタル）の必要性と取組を追記

○効果的な保健指導に向けた I C T の活用を追記

## 政策 2 ・ 取組 3（安心できる地域医療の充実）

○かかりつけ医に加え、「かかりつけ薬局」を追記

○「協働の考え方や役割」のうち、「医療機関の適正な活用」の内容を明記

## 政策 3 ・ 取組 1（暮らしたくなる都市拠点の創出）

○市での取組が限定的なため、次世代公共交通ネットワーク研究の記述を削除

○都市拠点、地域拠点に加え、「集落拠点」の考え方や取組を追記

# 素々案からの主な変更内容（取組）

## 政策3・取組2（誰もが移動しやすいまちづくり）

- 公共交通の利便性向上に向けたICTの活用を追記
- 都市間や地域間等を結ぶ道路ネットワークの整備について追記

## 政策3・取組3（花と緑と水のまちづくり）

- 公園や街路の樹木の維持管理に対する今後の対応（民間との連携や樹木の総数削減）について明記

## 政策4・取組1（産業の新たな展開の推進）

- 新型コロナウイルス感染症の発生による経済への影響を追記
- 企業の成長（生産性向上）に向けた5Gなど新技術の積極的な活用を追記

## 政策4・取組3（経営力の高い農業の振興）

- 農地の持つ多面的機能の具体例（景観形成機能や防災機能など）を明記

## 政策4・取組4（魅力的な商業の振興）

- 商業の実情を踏まえ、「卸売業・小売業」のみから「卸売業・小売業及び宿泊業・飲食サービス業」の記述内容に修正

## 政策5・取組1（万全な危機管理体制の構築）

- 地震のみならず危機管理全体（地震・津波・原子力・感染症）を含む内容に再整理（取組名を変更）
- 発災後の命を守る取組（災害関連死等の発生を防ぐ）として、災害時医療救護体制の項目に健康支援を加えて再整理（基本方針名を変更）
- 「自助・共助」の推進に向けて、地域や学校など様々な場面での啓発や訓練の実施を明記
- 防災減災に「女性の視点」について活用していくことを追記
- 新型コロナウイルス感染症の発生を踏まえ、基本方針に「感染症予防の推進」を新設

## 政策5・取組2（風水害に強いまちづくりの推進）

- 風水害対策に特化した取組に再整理（取組名を変更）
- 内水氾濫対策と外水氾濫対策、ハード事業とソフト事業をそれぞれ再整理して記述内容を修正



# 素々案からの主な変更内容（取組）

## 政策6・取組1（市民と行政の協働によるまちづくり）

- 地域づくり活動の次代の担い手確保に向けて、「新たな人づくり」「組織づくり」に取り組むことや参加・参画の方法などの再構築などを追記
- 「協働によるまちづくり」の積極的な推進を追記

## 政策6・取組2（教養ゆたかな人づくり）

- 生涯を通じた学びについて、よりリカレント教育を意識した内容を追記
- 文化財の保護活用に加え、本市出身の偉人の顕彰を追記

## 政策6・取組3（共生社会の推進）

- 性的志向・性自認（SOGI）及びLGBTについて追記

※政策2取組2・4・5、政策3取組4・5、政策4取組2、政策5取組3・4・5は主な変更無し（語句等整理のみ）